

2024年(令和6年)11月29日(金曜日)

伊丹市に開発センター稼働

フリーズドライ事業攻勢

日空工業

日空工業(兵庫県伊丹市)は開発センター(同)稼働を機に、フリーズドライ(FD)事業を中心にさらなる拡大を図る。同社は70年以上の歴史を持つ真空装置メーカーで、医薬および化学メーカー向けの棚式真空乾燥機では国内シェアトップを誇る。その知見を生かし2014年にFD事業に参入、真空凍結乾燥機の最新装置で実績を上げている。今年2月には本社近隣に開発センターを開設。既存の真空乾燥機、凍結乾燥機、含浸装置や開発品の蒸気コーティング装置などのテスト機を揃えつつ、真空凍結乾燥機のテスト機設置に合わせ、FDのさまざまな食品サンプルの作製に乗り出した。すでに食品メーカーなども来訪、新たな商機につながっている。



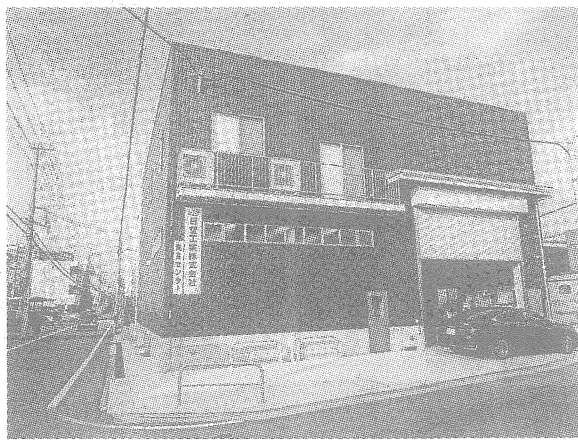
前田社長

ムタンブルドライヤなど真空技術を用いた装置を供給してきたが、食品メーカーの依頼を受けるかたちで10年前にFD事業に参入した。

フリーズドライ食品市場は拡大傾向にあり、4年で約1.8倍というデータもある。とくにフリーズドライ味噌汁の成長率は著しい。日空工業は医薬、化学、食品などに棚式真空乾燥機、バキュー

開発センターは本社工場のスペース確保、FD事業拡大の布石として設置した。その際、事業再構築補助金の給付を受け、新たにFDサンプルの受託生産も始めた。自社製品のFDを検討して

いる食品メーカーなどをサポートすることで装置販売につなげていく。開発センター内で実際に調理した食品のサンプル化も行うなど、自社でも試行錯誤を繰り返しており「装置はもちろんフリーズドライ食品の理解も進みスキルアップにつながっている。新たな装置開発や潜在需要の開拓になれば」(前田剛介社長)と期待する。



開発センター

並行して装置類の開発も進展しており、棚式真空乾燥機では自動化の特許を出願中のほか、他の装置についても省エネ、自動化などのニーズに対応していく。

案件の成約が続く同社。12月に74期に入る。今後も省人化、自動化などニーズに合った装置開発で食品をはじめ他分野に攻勢をかけるほか、真空技術を生かした新たな市場

開拓にも力を入れていく。